

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000062		
法人名	医療法人社団福寿会		
事業所名	コスモス苑「おおぞら」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥429番地6		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191000062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心地部に近い住宅街にある環境で、地域の人々との交流を深めながら、地域の一人としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを持ち、心穏やかに過ごしていただける空間を提供している。季節ごとに、春はサクランボ、夏は無花果、ナツメ、秋は柿にプラムなどの果物を植樹し、みんなで共有して利用者様共々味覚を味わっている。又、同法人のグループホームやショートステイなどと連携を取りながら、利用者様や御家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。母体が病院であることから、24時間医療と連携した支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり、職員も医療に関する相談がしやすい環境である。また、看護師が職員として配置されており、利用者の健康管理や医療行為が必要な場合も安心である。ユースエール企業に認定されており、若い人が働きやすい環境が整っている。また、施設長が法人内を回り、職員がいつでも相談できる関係が構築されている。施設の庭には、季節ごとに果実が成る樹木が植えられており、収穫時には、季節を楽しみながら皆で一緒に食している。自治会、美容院、保育園などとの地域交流を継続しており、防災会議への参加や福祉避難所としての役割等、地域に根差した運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日見ているホワイトボードの上に掲示し、心にとどめて実践に繋いでいる。又、正面玄関にも外来者様の目にとまるように掲示をしている。	事務所や玄関に理念を掲示し、職員が常に確認ができるよう意識付けをしている。虐待防止委員会でも、理念に立ち返り職員間で話し合いをしている。給与明細の袋にも理念が印刷されており、職員はここでも毎月確認することができる。	法人理念、コスモス苑理念に沿って支援を行なっている。開設5年が経ち、今後、「おおぞら」独自の具体的な目標作りや、目標達成に向けての取り組みなど、さらなる利用者支援の向上にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も前年度に続きコロナウィルスの影響を受けて、地域との交流は少なくなってきたが、例年同様保育園の鼓笛隊やお遊戯には来苑してくださっている。地域のお祭りの獅子舞の来園もして頂き、施設の利用者様が見学をされた。	母体法人は地域医療を担っており、地域の感染拡大状況を見ながら、地元の祭りや近隣の保育園児との交流などを継続している。今後は、地域清掃等を含めて、様々な交流を再開していきたいと考えている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染やインフルエンザの影響もあり、開催はされていない。以前は出来ていたので、その状況に戻れたら良いと思う。	運営推進会議を書面にて開催し、現状報告や事業所の取り組みを詳細に報告している。家族アンケートから、面会場所についての意見があり、改善している。また、自治会からは、災害対策としてヘルメットの整備について提案があり、利用者の防災頭巾を用意している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から介護相談員とリモートで面談をしている。又、市内で開催される勉強会には参加できる人は参加している。	日頃から、市と連絡を取り合い、困り事や相談があると直接窓口に出向いたり、電話をしている。市主催の防災の集まりに出席し、協力関係を築いている。県や市から研修案内が届き、外部評価の免除申請についても相談している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は家族様に相談、説明をして了解していただいている。毎月のケア会議で検討をして、記録を残している。 玄関の施錠は安全面から行っているが、中庭や別フロアへの行き来は自由に出来るようにしている。	身体拘束廃止委員会を毎月のケア会議の中で行い、議事録もきちんと整理している。利用者の心身の状況や、やむを得ない現状については検討会議を開き、身体拘束が必要な場合は、家族と相談し同意を得ている。職員研修は定期的に行われている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議で定期的に該当者の検討会を行い今後の方向性を検討している。定期的にビデオを見てスタッフと検討会を行い、感想文を記入している。	毎月のケア会議の中で、虐待防止についても話し合い、該当者の検討会を行なっている。虐待防止についての研修を受けた職員は、感想や意見を提出している。	虐待防止委員会を開催しているが、議事録は身体拘束廃止委員会と一緒にになっている。議事録の内容から、虐待防止についての項目が読み取れない。今後は、虐待防止委員会として議事録を分け、様式の整備にも期待したい。

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ利用される方や必要性のある方は見当たらないが、今後のために学ぶ機会を作るのはいい事である。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にケアマネージャーが御家族様や利用者様と面談をして、苑の情報をお伝えして。又、御家族様の情報も収集し、十分な説明をしてご理解を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からみ取るようにしている。又、苑の行事や面会、電話で対応するときに、御家族様の要望をお聞きしている。リモート面談や窓越しの面会、お手紙に対するお返事など頂いている。	家族からの意見や要望は、電話や面会時に聞いている。面会は感染予防のため窓越しで対応しているが、今後は状況を見ながら緩和していきたいと考えている。行事報告や利用者の暮らしぶりが分る写真を掲載したホーム便りと共に、職員の手書きメッセージや家族から要望のあった「食事便り」等を定期的に送付している	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のケア会議や、苑全体の責任者会議で話し合う機会が設けてある。	施設長は、普段から職員とコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いている。その中で職員の意見や要望を聞き、必要に応じて個人面談も行っている。毎月の職員会議では、ケア検討や物品の補充、修繕など、運営に関しての話し合いを行っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務時間の調整や、協力体制が整っており、働きやすい環境となっている。	ユースエール企業に認定されており、職員が働きやすいよう、産休や育休、有給の取得、人材育成等を積極的に行いながら就業環境の整備に努めている。休憩時間やノーコンタクトタイムが取れるよう、休憩場所の確保もされている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の情報が常に発信され、スキルアップが出来るようにサポートされている。	職員の希望に沿って年間研修計画が立てられている。資格取得を奨励し、シフト調整や補助金の支給もある。リモートで研修を受ける場合、外国人職員にも、丁寧に操作方法を教え対応している。認知症介護基礎研修は外国人職員も含め、3月末までに終了予定である。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今もコロナやインフルエンザ、感染性胃腸炎などが多く発生しているため多くはないが、市内のケアマネ会や、医師会が主催する会合には参加をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自主性を尊重しながら、人生の先輩として尊敬の心で接している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設利用に至るまでの情報やご本人との会話・生活ぶりの中で理解し、職員同士常に話し合いを行っている。月に1度のケア会議でも検討している。日々の変化は毎日のノートを利用している。	入居前の情報や本人との会話の中から、その人となりを掴み、思いを聞き取っている。日々の情報は手書きの個人記録や申し送りノートで共有しケアに活かしている。意思表示が困難な利用者は、表情や行動から思いを汲み取り、理解するよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で、課題のある利用者様を提示し、意見交換を行っている。	介護計画は、日々の個人記録、家族や関係者の意見を聞きながら作成している。遠方の家族の意向確認は介護計画書に手紙を添えて送り、押印の上、返送を依頼している。半年ごとに計画の見直しをしているが、状態の変化によっては柔軟に対応し見直しを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子は個人記録に記入し、共有している連絡ノートも活用し、ケアの統一が計れるようにしている。	申し送りノートに記載する際には、医療情報は青色、介護情報は黒色で色分けし、それをまとめて生活管理ノートに記録している。職員が書き込みや確認ができるよう、1週間分をフロアーに置き、ケアプランと一緒に利用者毎のファイルに綴じている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個人個人にあったサービスを行えるように支援している。	緊急時の受診は、管理者やケアマネジャーが付き添っている。今は、まだ難しいが、コロナ禍前は、法人内にあるカフェで、お茶を楽しんだり、毎年、障害者施設から野点の招待状が届いていた。次回は参加したいと考えている。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症が蔓延傾向にあり、民間のボランティアの受け入れはしていないが、幼稚園児や小学生、又、地域の春祭り・秋祭りの苑の広場への訪問はあった。皆で見学をして楽しんだ。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、御家族様の意向に添って受診治療を行っている。主治医が定期的に行っており、状況の判断もしやすい。	契約時に、かかりつけ医の選択ができる事を説明している。外部の医療機関への受診は、基本的に家族が付き添っている。往診は定期的に行われ、歯科医の往診もある。職員として看護師の配置があり、日々の健康管理や医療行為が必要な際には適切に支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報と共に医療に関する情報も提供している。退院後もフォローし、利用者様と御家族様に安心して頂けるようにしている。	入院時は、利用者の医療情報提供書や病院・施設が活用する共通シート「医療・介護連携シート」を渡している。退院時のカンファレンスには、管理者、ケアマネジャーが出席し退院後の利用者支援について話し合っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネジャーが入所時に説明を行っている。重症化した場合は、御家族様、医師と話し合い、今後の方針を決定している。24時間体制で対応し、御家族様の意向に添い対応している。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を整備し、入居時に内容を説明している。「緊急時対応マニュアル」を整備し、全職員に周知している。以前、職員一人が社協の看取り研修に参加している。全職員対象の研修も実施予定であったが、まだ実現していない。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで対応出来るように心掛けている。状況によっては医師・看護職の指示を貰い対応している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害等の避難訓練を自主的に行っている。利用者様にも参加をしていただいている。又、食品の備蓄や水タンクの準備も行っている。	独自の災害訓練は定期的に行っている。非常食に関しては、賞味期限を確認し通常の食事と一緒に提供して試食をしたり、適切に管理している。また、補助金でマットレスを購入し、古い物は非常用として保管している。福祉避難所として、災害時に、高齢者の緊急受け入れを行ったこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳・プライバシーに配慮した対応を意識している。毎日の声掛けも行っている。	新人研修の際に、接遇に関して学んでいる。毎月のケア会議の中でも利用者への対応方法について学び、全職員に周知している。日常の会話は利用者が慣れ親しんだ郡上弁で話し、温かみと安心できる声掛けをしている。入浴時には、同性介助の希望に沿って支援を行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からくみ取るようにし、自己決定出来るように支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人を尊重し、希望を聴きながら日々の生活を送れるように支援を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、個人に合った物を提供している。おやつ作りなど職員と一緒に作り作っている。	事業所内の厨房で調理した食事を提供している。おやつレクや盛り付けなどは、利用者も職員と一緒にいる。栄養士が、利用者の食事の様子を見回りながら現状を把握し、状態に合わせて形態を変更するなど、その人に合った食事提供に努めている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、記録用紙に記入している。バランスのとれた食事を提供できているかチェックしている。チェックを元に栄養士から指導を受けている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と毎食後に利用者に合わせて口腔ケアの介助をしている。異常があれば歯科受診や往診をしていただいている。	職員は、毎食後に利用者全員に声掛けし、口腔ケアの介助や見守りを行い、清潔保持に努めている。夜は外した義歯を預かり、消毒している。口腔内の異常や義歯の不具合等があれば、歯科受診や往診に繋げている。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に合った排泄介助や声掛けを行っている。状況が変わった時などはみんなで話し合い、対処方法を変えている。チェック表を付けて情報を共有し、自立に向けた支援を行っている。センサーマットの利用もしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全体的入浴日は決めてあるが、その日の状態や希望に合わせて変更の対応をしている。入浴剤や季節に適応したお風呂の日を作り、変化を楽しんでいただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう、温度調節や寝具に気を付けている。一人一人の生活習慣を尊重し、休みたいときには休んでいただけるよう、短時間の昼寝をして頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜、薬情を見ている内服薬の理解をしている。配薬の間違いが無いよう個々の薬箱を用意し、服薬のチェック表を活用している。症状の緩和が出来るように、看護職と連携し状況の変化に対応している。	服薬支援時には誤薬防止の為、ダブルチェックをしている。最新の薬剤情報は薬ケースの中に入れ、職員がいつでも確認できるようにしてある。処方変更された時は利用者の状態を観察し、変化に気づいたときは看護職員に相談、医師に連絡している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の得意な事や好きなこと、出来ることをやっていただけるよう支援している。季節の行事やレクリエーションを行い、楽しんでいただけるようにしている。	芋のツルやふきの筋取り、大根漬け、初午団子作りなど、利用者にとっては馴染みの調理作業をレクリエーションとして楽しんでいる。塗り絵や絵を書くことが好きな利用者、片付けや洗濯物を畳むことが得意な人など、楽しみながら、残存機能を活かせるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や、近くの池やお庭への散歩が出来るように支援している。感染症が今より治れば御家族様との外出も可能となることに期待する。	桜の木がある広い中庭は、車椅子でも安全に移動ができ、お茶を楽しむことも出来る。2～3か月毎に近所の美容院に行く利用者もある。コロナ感染防止のため、遠出の外出は控えているが、今後、地域の感染拡大状況を見ながら、ドライブなどの再開を検討している。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため預かり金を事務所で保管している。日用品や利用者様の要望の品を職員が購入し、お渡ししている。領収書は御家族様に郵送をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や友人の方からの電話は自由に掛けていただいている。又、リモート面会や手紙でのやりとりも出来るように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除や季節の飾り付け、行事の写真の展示を行っている。苑庭には花や野菜を植えている。	感染予防の為、共用空間には立ち入らず、写真や窓越しからの確認となった。居間は明るく広い。花を随所に置き、季節感ある利用者の作品が飾られている。窓から中庭の桜を眺めることもでき、楽し気な行事の写真も掲示している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭に椅子があり自由に入出し使用できる。フロー内では職員が声掛けをし、気の合う方と話せる様に席を移動していただいたりして、気配りをしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテレビや写真、思い出の品などを持ち込み、自由に飾っていただいている。又、工作で作った飾りや季節の写真も飾っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活を送っていただけるよう、手すりの設置や状況に合わせた家具に配置などを行っている。居室の位置や車椅子や押し車の置き場所にも配慮している。		